

アグリ | ワーク | ポイント



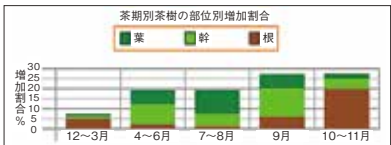
茶指導販売課 亀山 毅人

三番茶芽(四番茶芽)は充分に伸育していますか？

この時期は、春から夏にかけて新芽の摘採で消耗した樹勢を回復させ、来年に備えて母体づくりをしてください。茶樹は一般に地上部と地下部が交互に生長する傾向がみられ、葉や芽の伸育が止まると根の生育に移行します。秋肥の施用が、重要なポイントになります。

秋肥の施用

秋肥は、来春一番茶の良質多収を図るうえで重要な肥料です。茶期別の葉と幹、根の増加割合をみると9月に幹、10～11月に根が多く伸育しています。そのため、9～11月に養分を充分に吸収させ、蓄積することが大切です。肥効を高めるために、有機質配合肥料を大幅に施用し、土とよく混ぜておきましょう。



病害虫防除

この時期の病害虫被害は、一番茶に大きく影響しています。葉層が厚くなっているため、薬剤散布は丁寧に行いましょう。また、チャノホコリダニの発生にも注意が必要です。クワシロカイガラムシは、3回発生地域で9月下旬が防除時期になります。

台風対策

強風により葉ずれが起きると、傷口から菌が感染して**赤焼病**が発生しやすくなります。特に幼木園や風当たりの強い茶園、毎年赤焼病が多発する茶園などは、事前に防風ネットや防風垣を設置しましょう。葉ずれや葉傷みが見られたら、直ちに銅水和剤を散布しましょう。

赤焼病

発生部位：葉や新梢
被害：減収や生育阻害

発生時期：秋～春先。特に晩秋の台風後に多発しやすく、多肥園や早生種は注意が必要。

伝染方法：強風で葉柄、葉面に生じた傷口から感染する。伝染には雨が必要と考えられ、台風や台湾坊主の通過時は要注意。

発病時期：秋～春。一番茶萌芽前に発病が多い。

潜伏期間：20～30日

防除：銅水和剤を台風などが通過する前または、台風直後に500倍で散布すれば効果期待できます。幼木園に防風ネットを張るなどして風を弱める方法も効果的です。